

# マス・メディア

## —第四の権力—

### 1. はじめに

今日、テレビや新聞等に代表されるマス・メディアは、私たちの生活の中で欠かせないものとなっている。その影響力は絶大であり、そこから「第四の権力」と揶揄されることもある。そこで本勉強会においては、マス・メディアというものについて、さらには日本のマス・メディアの現状について捉えていきたいと思う。

### 2. マス・メディア＝第四の権力とは？

マス・メディア：新聞社・出版社・放送局など、ある特定の少数の発信者から不特定多数の受け手へ向けての情報伝達手段となる新聞・雑誌・ラジオ・テレビ等のメディア（媒体）のことをいう。

第四の権力：マス・メディアの発達に伴い、その影響力の大きさから、それらを指して使われ始めた言葉。四権とは、主に立法・行政・司法・報道の四者の権力の総称。現在、この言葉は肯定的にも、否定的な意味合いにも使用され、その定義は厳密ではない。

### 3. メディアの役割

現在、様々なジャーナリストや学者から報道の基本的な役割や、とるべきスタンスというものについての定義付けがなされているが、いまだその定義が確立しているとは言い難い。そこで便宜上、今回、報道の役割というものを大きな二つの観点から考えていきたい。

#### i) 事実報道

真実、または事実と思われるものを純粋に伝える報道。そのための考え方として客観報道が標榜されているが、それに対する批判も少なくない。

#### ii) 理念提示

報道の受け手に対し、そのメディアの見解などの指針を提示すること。しかし、慎重な判断に基づかなければ、偏向報道であるといった誹りを受けやすい。

→現状において、どこまでこの役割を遵守できているのか？

#### 4. 日本における報道とその批判

ここで日本における報道のあり方についての批判を取り上げ、その是非について前項の観点に照らして、考えていきたいと思う。

##### i) 偏向報道

- ・ 事実報道と理念提示の混同
- ・ 事実の歪曲・捏造報道
- ・ 国家権力との癒着
- ・ 報道上のタブーの存在

##### ii) 商業主義

- ・ 視聴率偏重の報道姿勢
- ・ スポンサーによる影響
- ・ 株式上場による報道の公平性への不安

##### iii) 「第四の権力」としての危険性

- ・ 人権侵害問題
- ・ 巨大な影響力への責任
- ・ 第四の権力を監視するのは誰か？

→課題は山積しているが、それは何故なのか？

#### 5. おわりに

マス・メディアは多大な影響力を持ち、私たちにとって最早欠くことのできない存在である。しかし、あまりに身近であるが故、マス・メディアというものの全体像を、私たちは把握しきれていないのではないだろうか。欧米などに比べ、メディアは盲点のまま放置されてきており、日本においてはメディアを研究する体制からして不十分である。私たちは、新たな権力というものを、一度省みるべき時期にきているのではないだろうか。

#### 【参考文献】

- ・ 柴山哲也ほか 『日本のジャーナリズムとは何か』 ミネルヴァ書房 2004年
- ・ 中正樹 『「客観報道」とは何か』 新泉社 2006年
- ・ 金子勝ほか 『メディア危機』 NHK出版 2005年
- ・ 佐藤卓己 『メディア社会』 岩波書店 2006年
- ・ 菅谷明子 『メディア・リテラシー』 岩波書店 2000年